

平成25年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年3月29日

上場取引所 大

上場会社名 ケイティケイ株式会社
 コード番号 3035 URL <http://www.ktk.gr.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青山 英生
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 木村 裕史
 四半期報告書提出予定日 平成25年4月1日 配当支払開始予定日

TEL 052-931-1881
 平成25年5月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年8月期第2四半期の連結業績(平成24年8月21日～平成25年2月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年8月期第2四半期	4,095	—	△2	—	△1	—	24	—
24年8月期第2四半期	4,188	△3.4	21	△58.4	20	△56.2	7	△61.6

(注) 包括利益 25年8月期第2四半期 28百万円 (—%) 24年8月期第2四半期 6百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年8月期第2四半期	5.59	—
24年8月期第2四半期	2.10	—

当社は、平成24年8月期より決算期を毎年5月20日から毎年8月20日に変更しております。これに伴い、25年8月期第2四半期(8月21日から2月20日まで)と比較対象となる24年8月期第2四半期(5月21日から11月20日)の期間が異なるため、25年8月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年8月期第2四半期	7,911	2,388	30.2
24年8月期	4,101	1,947	47.5

(参考) 自己資本 25年8月期第2四半期 2,388百万円 24年8月期 1,947百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年8月期	—	4.00	—	3.00	7.00
25年8月期	—	3.00	—	—	—
25年8月期(予想)	—	—	—	4.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年8月期の連結業績予想(平成24年8月21日～平成25年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,892	—	132	—	117	—	46	—	9.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成24年8月期は決算期の変更により15か月決算となっておりますので、平成25年8月期の連結業績予想の第2四半期連結累計期間及び通期の対前年増減比率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社青雲クラウン 、 除外 1社 (社名)
(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年8月期2Q	5,875,000 株	24年8月期	3,675,000 株
② 期末自己株式数	25年8月期2Q	152,815 株	24年8月期	37,715 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年8月期2Q	4,357,277 株	24年8月期2Q	3,637,285 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前連結会計年度の決算期変更に伴い、当第2四半期累計期間は比較対象となる前第2四半期連結累計期間と対象期間が異なるため、対前年同四半期増減比については記載していません。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成24年8月21日～平成25年2月20日)におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景に緩やかな回復の兆しが見られる中、12月の政権交代に伴う自由民主党新政権による経済政策(いわゆるアベノミクス)が円安株高の流れを引き起こしたことで、本格的な景気回復に対する期待感が高まっております。

しかしながら、海外では欧州債務危機の再燃懸念、また国内に目を向ければ依然として高い水準にある失業率、将来の消費税増税の心理的影響等が、足元の個人消費に微妙な影を落としており、引き続き先行き不透明な状態で推移しました。

このような中で、当社グループを取り巻く経営環境は、企業における節約志向が恒常化しているため、リサイクルトナーなどの消耗品の受注競争はますます激化し、引き続き厳しい状況が続いております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,095百万円となりました。営業損失は2百万円、経常損失は1百万円となりましたが、株式会社青雲クラウンの子会社化に伴う負ののれん発生益26百万円により、四半期純利益は24百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(サプライ事業)

当社グループの主力商品であるリサイクル商品(リパクトナー)は、引き続き企業の消耗品使用量の節約や経費削減を目的とするプリンター集約化並びに大手メーカーの複合機化戦略の影響を受けました。

OAサプライ商品は、インクカートリッジ関連及びPPC用紙、インクリボンの売上高が順調に推移したものの商品群全体の売上高は低迷しました。

その他商品においては、一般事務用品の売上高が順調に推移しました。

これらの結果、売上高3,974百万円、セグメント損失(経常損失)は21百万円となりました。

(ソリューション事業)

引き続きクラウドの需要に支えられクラウド型メールセキュリティサービス「@Securemail」シリーズの売上高は堅調に推移したものの、構築サービスにおける前年同時期の震災後の一時的な需要増に対する反動や、単価の高い専用サーバサービスからクラウド型サービスへの契約変更に伴い、既存サービスの売上高が減少したこと等の影響により、売上高は低迷しました。

これらの結果、売上高は120百万円、セグメント利益(経常利益)は19百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、株式会社青雲クラウンの子会社化に伴い前連結会計年度末に比べ3,809百万円増加し、7,911百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,040百万円増加し、5,361百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により現金及び預金が925百万円、受取手形及び売掛金が1,609百万円、商品及び製品が444百万円増加したこと等によります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ768百万円増加し、2,549百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により有形固定資産が379百万円、無形固定資産が58百万円、投資その他の資産が330百万円増加したことによります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,892百万円増加し、4,919百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により支払手形及び買掛金が1,954百万円、短期借入金が821百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ475百万円増加し、602百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により長期借入金が315百万円増加したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ441百万円増加し、2,388百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化に伴い新株発行費用として資本剰余金が448百万円増加したこと、自己株式を25百万円取得したこと等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ631百万円増加し、1,366百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、144百万円(前第2四半期連結累計期間は12百万円の使用)となりました。収入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益24百万円、仕入債務の増加額101百万円、たな卸資産の減少額49百万円であり、支出の主な要因は、売上債権の増加額58百万円、負ののれん発生益26百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、549百万円(前第2四半期連結累計期間は4百万円の使用)となりました。収入の主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入563百万円、保険積立金の解約による収入26百万円であり、支出の主な要因は、有形固定資産の取得による支出15百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、62百万円(前第2四半期連結累計期間は31百万円の使用)となりました。支出の主な要因は、自己株式の取得による支出25百万円、短期借入金の減少額18百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における業績は、平成24年10月4日に公表いたしました予想を下回る結果となりました。

当連結会計年度におきましても、当社グループを取り巻く環境はまだまだ厳しい状況が続くものと予想されますが、経済・金融政策の効果により市場環境の好転が見込まれ、営業活動の活性化とともに、さらなるコスト圧縮に努めることから、業績の回復は十分可能であると判断し、平成24年10月4日に公表した通期連結業績予想は変更いたしません。今後、何らかの変化がある場合には適時開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結会計期間より、株式会社青雲クラウンの株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

《簡便な会計処理》

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計年度末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

⑤法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年 2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	873,625	1,798,629
受取手形及び売掛金	1,153,707	2,763,589
有価証券	20,984	20,991
商品及び製品	127,357	572,033
仕掛品	3,400	2,864
原材料及び貯蔵品	88,149	69,657
その他	55,507	136,011
貸倒引当金	△2,298	△2,418
流動資産合計	2,320,435	5,361,359
固定資産		
有形固定資産		
土地	863,977	1,176,600
その他(純額)	390,468	457,169
有形固定資産合計	1,254,446	1,633,769
無形固定資産		
その他	91,187	149,790
無形固定資産合計	91,187	149,790
投資その他の資産		
その他	438,078	769,884
貸倒引当金	△2,491	△3,510
投資その他の資産合計	435,587	766,373
固定資産合計	1,781,221	2,549,933
資産合計	4,101,656	7,911,292
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	772,354	2,727,289
短期借入金	963,772	1,784,852
未払法人税等	2,117	10,635
賞与引当金	32,413	36,399
その他	256,370	360,752
流動負債合計	2,027,027	4,919,928
固定負債		
長期借入金	9,216	324,882
役員退職慰労引当金	69,247	129,301
その他	48,927	148,708
固定負債合計	127,390	602,892
負債合計	2,154,418	5,522,820

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 8 月20日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成25年 2 月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	259,675	708,475
利益剰余金	1,412,486	1,425,948
自己株式	△20,929	△46,419
株主資本合計	1,945,907	2,382,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,331	5,792
その他の包括利益累計額合計	1,331	5,792
純資産合計	1,947,238	2,388,471
負債純資産合計	4,101,656	7,911,292

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月21日 至平成23年11月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月21日 至平成25年2月20日)
売上高	4,188,300	4,095,312
売上原価	3,107,841	3,078,661
売上総利益	1,080,459	1,016,651
販売費及び一般管理費	1,058,647	1,019,267
営業利益又は営業損失(△)	21,811	△2,615
営業外収益		
受取利息	113	87
受取配当金	631	522
受取家賃	1,853	3,499
受取手数料	478	310
その他	3,645	2,752
営業外収益合計	6,721	7,172
営業外費用		
支払利息	5,304	5,177
その他	2,243	1,132
営業外費用合計	7,547	6,310
経常利益又は経常損失(△)	20,985	△1,753
特別利益		
負ののれん発生益	—	26,297
特別利益合計	—	26,297
特別損失		
投資有価証券評価損	1,025	260
特別損失合計	1,025	260
税金等調整前四半期純利益	19,960	24,283
法人税、住民税及び事業税	11,650	6,987
法人税等調整額	657	△7,077
法人税等合計	12,307	△90
少数株主損益調整前四半期純利益	7,652	24,373
四半期純利益	7,652	24,373

四半期連結包括利益計算書
第 2 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 5 月 21 日 至 平成23年11月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月 21 日 至 平成25年 2 月 20 日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,652	24,373
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,202	4,460
その他の包括利益合計	△1,202	4,460
四半期包括利益	6,450	28,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,450	28,834
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 5 月21日 至 平成23年11月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 2 月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	19,960	24,283
減価償却費	51,033	43,196
のれん償却額	515	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	926	398
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5,877	△5,423
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	3,985
受取利息及び受取配当金	△744	△610
支払利息	5,304	5,177
負ののれん発生益	—	△26,297
保険解約損益 (△は益)	—	△660
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,025	260
売上債権の増減額 (△は増加)	△65,865	△58,978
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△36,478	49,268
仕入債務の増減額 (△は減少)	39,662	101,657
その他	△4,798	14,442
小計	16,419	150,699
利息及び配当金の受取額	744	610
利息の支払額	△5,305	△5,179
法人税等の支払額	△24,855	△1,644
営業活動によるキャッシュ・フロー	△12,997	144,485
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△67,838	△69,021
定期預金の払戻による収入	92,015	66,010
有価証券の取得による支出	△8	△7
有形固定資産の取得による支出	△4,922	△15,034
有形固定資産の売却による収入	429	—
無形固定資産の取得による支出	△14,353	△11,647
投資有価証券の取得による支出	△1,323	△1,338
投資有価証券の売却による収入	—	6
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	563,380
差入保証金の差入による支出	△2,009	△117
差入保証金の回収による収入	2,706	420
保険積立金の積立による支出	△7,295	△7,570
保険積立金の解約による収入	—	26,862
長期前払費用の取得による支出	△1,965	△2,282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,566	549,661

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 5 月21日 至 平成23年11月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 2 月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△18,000
長期借入金の返済による支出	△2,886	△2,886
リース債務の返済による支出	△3,571	△5,296
自己株式の取得による支出	—	△25,086
配当金の支払額	△25,331	△10,884
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31,788	△62,153
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△49,352	631,993
現金及び現金同等物の期首残高	725,105	734,128
現金及び現金同等物の四半期末残高	675,752	1,366,121

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第 2 四半期連結累計期間(自 平成23年 5 月21日 至 平成23年11月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,052,082	136,218	4,188,300	—	4,188,300
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	351	351	△351	—
計	4,052,082	136,570	4,188,652	△351	4,188,300
セグメント利益	8,107	12,877	20,985	—	20,985

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。

II 当第 2 四半期連結累計期間(自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 2 月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,974,780	120,532	4,095,312	—	4,095,312
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	211	211	△211	—
計	3,974,780	120,744	4,095,524	△211	4,095,312
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△21,746	19,992	△1,753	—	△1,753

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「サプライ事業」セグメントにおいて、当社が平成24年12月21日に株式会社青雲クラウンを完全子会社化したため、当第 2 四半期連結累計期間において、負ののれん発生益26百万円を計上しております。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント損失には含まれておりません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年12月21日付で当社を完全親会社とし、株式会社青雲クラウンを完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この株式交換により、発行済株式数が2,200,000株増加するとともに、資本剰余金が448,800千円増加しております。